

NJ素流協 News

令和5年9月10日

第224号

令和5年9月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6（農林会館5階）
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>



イベントの目玉「山のしごと」デモンストレーション

ノースジャパン素材流通協同組合青年部会 『第3回げんき森林モリ フェスティバル』を開催!!

ノースジャパン素材流通協同組合青年部会は、8月6日、岩手県八幡平市の岩手県民の森において、いわての森林づくり県民税を活用した児童・生徒向けの森林・林業普及啓発イベント「第3回げんき森林（モリ）モリフェスティバル」を開催した。

3回目の開催となる今回は、晴天に恵まれ、また、第1回と同様に夏休み中の開催としたため、猛暑の中であったが、親子連れを中心に500名が来場した。

また、今回も例年通り、チェンソー伐倒デモンストレーション（主催：岩手県グリーンマイスター連絡協議会）、木工教室（主催：岩手県木材青壮年協議会）等との併催となった。

毎度おなじみの会場となった県民の森「遊び場広場」内には、林業の仕事をイメージしてもらうために機械作業の実演を行う「山のしごとコーナー」、木や林業を身近に感じてもらうための各種体験を準備した「木とのふれあいコーナー」、高性能林業機械の実機および紹介展示等を行う「展示コーナー」の3つのコーナーを設けた。



伊東さんが見事な伐倒を披露

「山のしごと」を見て知ってもらうため、林業の機械作業のデモンストレーションを全3回実施した。

《山のしごと「コーナー」》

はじめに、併催イベントとして、岩手県グリーンマイスター連絡協議会がチェンソー伐倒のデモンストレーションを行い、協議会員の伊東日向子さんが正確で安全な伐倒を披露した。



日立建機日本独自のテレブーム仕様ハーベスタ



迫力ある機械作業に注目

その後、青年部会の会員が説明及びオペレーターを担当し、テレブーム仕様ハーベスタによる伐倒造材、グラップルによる集積作業、自走式チップパーによる丸太の破碎作業の実演を行った。

迫力があり、格好良いチェーンソー伐倒や高性能林業機械作業を目の当たりにして、会場は来場者の大きな拍手と歓声に包まれた。

《木とのふれあいコーナー》

木とふれあったり、林業を模擬的に体験してもらうための体験ブースを設けた。

▼ブース一覧

- ・木のぼり体験
- ・丸太ぎり体験（鋸）
- ・丸太ぎり体験（チェーンソー）
- ・枝はらい体験
- ・木工教室（併催）
- ・げんき森林モリ

夏のきのこさがし（併催）



丸太ぎり体験（チェーンソー）



丸太ぎり体験（鋸）



木のぼり体験



げんき森林モリ 夏のきのこさがし



木工教室



枝はらい体験



未来のオペレーター!?

《展示コーナー》

林業機械メーカーの各ブースにおいて高性能林業機械および林業関係車両の展示や機械の紹介展示が行われた。子供たちが機械の運転席に座って記念撮影をしたり、運転シミュレーターで操作体験を行うなど楽しんでいる様子が見られた。



シミュレーターで運転体験



重機だけでなく林業関係車両の展示もあり盛りだくさん



大盛況の併催イベント「餅まき大会」



子どもたちが楽しめるゲームも



青年部会の皆さん おつかれさまでした!

▼協力団体・企業等のご紹介
 公益社団法人岩手県緑化推進委員会／岩手県民の森／岩手県林業団体青年部連絡協議会／株式会社レンタルのニッケン／日立建機日本株式会社／日本キャタピラー合同会社北東北地区／イワフジ工業株式会社／住友建機販売株式会社／コマツ岩手株式会社／緑産株式会社／株式会社サナース／株式会社アクティオ／株式会社加藤製作所／株式会社エープラス

イベント開催にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます

特集2

Swedish Forestry Expo
(スウェーデン林業機械展)

視察研修参加報告・後編
フィンランド編

ノースジャパン素材流通協同組合

経営企画管理部経営管理課課長 立花 由美

この6月、スウェーデン及びフィンランドにおける林業機械や素材生産現場の視察研修に参加いたしました。今回は、フィンランドでの視察内容を報告いたします。

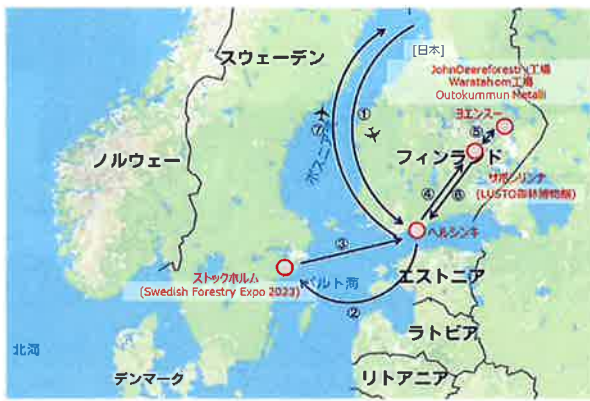
羽田空港を出発して5日目、フィンランドの首都ヘルシンキへ到着。

□ フィンランド

フィンランドは、北ヨーロッパに位置するバルト海に面しており、スウェーデン、ノルウェー、ロシアと国境を接しています。国土面積は、約33・8万km²（日本の9割程度、九州・沖縄を除き、本州、北海道と四国を合わせたくらい）、国土の大部分は平野と湖沼地帯から成り、約18万8千の湖が点在しています。それゆえに、フィンラ

ンドは「千湖の国」とも呼ばれています。

人口は554万人ほど（日本の約4・4%）、首都はヘルシンキで、公用語はフィンランド語（一部で



移動経路

はスウェーデン語）です。
□ フィンランドの森林

フィンランドの森林面積は約23万km²で、国土の約70%を占めます。北部や東部に広がる針葉樹林は、

主に欧州アカマツ（パイン）や欧州トウヒ（スプルース）で、これらの木材は建築資材やパルプ製造に利用されています。また、南部では、シラカバ（フィンランドの国の木）の広葉樹林がみられ、木材や家具、クラフト品の重要な材料となっています。

フィンランドは長期的な森林管理計画を推進しており、伐採と植林のプログラムを通じて森林資源の持続的な利用を確保しています。そのための厳しい森林法が定められており、樹齢がある一定の年数に満たない木は、たとえ私有地であっても伐採が禁止されているなど、大切な資源である森林を守るために制限が課せられています。また、日本とフィンランドの森林面積はほぼ同じですが、木材生産量は日本の約3倍の約6千万m³を誇ります。生産量が多い理由の一つとして、高性能林業機械によ

る先進技術を導入した効率的な林業を実践してきたことがあげられます。

一方で、森林の再生や維持、生態系の保護などを通じて、将来の世代にも森林を継承できるような取り組みが行われています。



見渡す限り平坦で広大に広がる森林風景

森林所有者には、森林法により森林計画の策定と10年に1回の森林計画の見直し義務づけられています。1本の木を伐採すれば、5本の植樹を行うなど、森の生態系を維持しながら計画的に伐採と植林を行っています。



子供から大人まで楽しめる

ヘルシンキからバスで約4時間、
 プンカハリユという美しい湖沼地帯が広がる地域にある、フィンランドの森林と林業に関する展示や情報提供を行っている博物館を訪

■ LUSTO(フィンランド国立森林博物館)

フィンランドでは、長期的に安定した森林のサイクルが確立されていることにより、極寒の地で鍛えられ、ゆつくりと成長した良質な木材が安定的に供給されています。

* * * * *

れました。ここでは、フィンランドの森林文化、歴史、技術、環境保護、木材産業に関する事柄を学ぶことができます。森林資源の重要性や持続可能な林業の推進、生物多様性の保護など、森林にまつわる幅広いテーマで紹介されています。

しかし！展示物の説明はすべてフィンランド語及び英語によるもので、展示品やアート、写真からその内容を推し量るだけが限界でした。残念!!

■ 林業機械製造工場見学

Outokummun Metallili社(以下、メタリ社)、Waratah社(以下、ワラタ社)、John Deere Forestry社(以下、ジョン・ディア社)の3社の工場を訪問(工場内は写真撮影禁止)。

▼メタリ社工場：1980年設立、ハーベスタヘッドフレームの世界最大メーカー。主にワラタ社、ジョン・ディア社のハーベスタヘッドのフレーム、機械部品を製造する。



生産性と精度のバランスが確保されたワラタ社400シリーズハーベスタ

▼ワラタ社工場：メタリ社とジョン・ディア社共同により設立された。また、工場内の暖房は敷地内バ

イオマス発電によりまかなっているとのこと。



1984年にメタリ社が製造したハーベスタ

たハーベスタヘッドの開発と製造を専門にした合弁会社。ワラタ、ジョン・ディア両ブランドのハーベスタヘッドの製品開発、最終組み立て、製品サポートを行っている。

▼ジョン・ディア社工場：19世紀に設立されたアメリカに本社を置く世界最大の農業林業機械メーカー(雇用者は世界で7・5万人規模)。世界に数々の拠点をもち、農業機械・土木機械・林業機械の開発、製造を行っている。基本的にはアメリカを拠点に製造しているが、ハーベスタやフォワーダなどの林業機械全体を指揮するのはフィンランドで対応。

大型の林業機械を、1機については9日間で、1日8台製造する大型工場。9割近くが輸出向けで近年の売上は非常に好調とのこと。



外にはたくさんの林業機械が！

▼工場に隣接したグッズ売り場に
あったジョン・ディア社オリジナル
自転車、かわいい!! 本体10万円
弱くらい、しかし、驚くなかれ、
日本への送料は30万円くらいかか
るとのこと!!

■ オフ・ショット

* * * * *



お昼は社員食堂でいただきました。おいしかった！

今回訪れた工場内の様子につい
ては、YouTubeで短い動画
が公開されています。興味のある
方は、「John deere finland fac
tory」と検索してご覧ください。

▼今回のメンバーのうち、社長、
専務、そして従業員の3名で参加
していた素材生産業の会社があり
ました。聞くと、その会社では勤
続10年で従業員を海外視察に連れ

▼フィンランドではバスでの移動
時間が長かったのですが、このト
レーラー(右下の写真)とすれ違っ
た時が道中いちばん盛り上がりま
した。みなさん、林業人ですね。



かわいいオリジナル自転車

ジョン・ディア社のグッズは世
界的に人気があるようで参加され
た方たちはたくさんお土産を買っ
ていました。林業機械展のブース
の広さはグッズ売上高に比例する
という噂で、確かにスウェーデン
林業機械展でのジョン・ディア社
のブースが一番広かった!



林業機械に囲まれて記念撮影!!

ていく、という慣習だそうです。
長く勤めるモチベーションになる
素敵な取り組みだと思いました。



たまたますれ違ったトレーラー！
皆さんテンションUP

今回の視察については、北欧の

林業について実際に見て知見を広げる、ということはもちろんですが、NJ素流協主催の海外視察研修を実現するための準備という目的をもって参加しました。

実際の視察ツアーに参加することで、海外の状況や行程の組み立て方、ツアーのプロセスを直接体験し、視察を通じて得た知識や経験をともに、NJ素流協主催の組合員さんのための視察研修を企画する予定です。

組合員のみさんの興味をひく、有意義な視察研修をプランニングできればと考えております。ぜひお楽しみに!!

トピックス

株川井林業雫石新工場 大径材ラインを見学!

8月3日、株式会社川井林業雫石工場にて、試運転中の新工場・

大径材ラインを見学させていただきました。

新工場の中でも、とりわけ3台設置される高速リングバーカーは、これまで以上の元口径が投入可能とのこと。原木選別機も設置されており、径別別の選択が可能となり、生産性アップが期待できるとのことでした。

最終梱包作業までの間、作業員が木材(原材料)に触れることがない省人化された製材ラインとなり、1人当たりの生産性も向上します。

原木投入量が増量することで、生産性や原木使用量の増量も期待されます。受け入れの元口径最大径については65cmを基本とし、相談により75cmまで受け入れる予定(入荷量次第で変更になる場合あり)。ただし、元口径最大径が65cm超のもの、雫石工場内の別途指定場所に極積みする予定とのこと。なお、ノーマンツインバンドソー(超大径木ライン)は2023年秋、プロファイリングライン(小

中大径材ライン)は2024年夏に稼働予定です。

ご多用中のところ、見学を受け入れていただいた株式会社川井林業の皆様には厚く御礼申し上げます。

※有限会社川井林業は、8月10日を以て、「株式会社川井林業」に商号変更されました。



新工場外観

需要と供給の マッチアップ! 浄法寺漆生産に協力!

NJ素流協では、合板工場や製

材工場・木質バイオマス発電所への原木供給だけではなく、あらゆる「木」に関する需要と供給のマッチアップも行っています。今回は、「浄法寺漆」について紹介!!

岩手県二戸市安比で漆生産を行っている株式会社小西美術工芸社二戸支社(漆生産部門)(以下、小西美術工芸社)取締役 漆生産部門総責任者 福田 達胤氏より「漆掻き用原木を探しているので、紹介して欲しい」と連絡があり、他方岩手県下閉伊郡岩泉町にある株式会社吉本 岩泉事業所(以下、吉本岩泉事業所)の所長代理 卯名根口 育夫氏より、「会社所有の漆林があり、良い方法があれば…」と相談があったもので、漆造林の面積は6ha、そのうち1haが、樹齢35年生で胸高直径24〜30cm、本数600本とのことであった。今回のマッチアップは、小西美術工芸社と吉本岩泉事業所の双方からの情報を繋ぐことによって可能となった。

小西美術工芸社より、現在では、

年間200本の原木から13貫目(約50kg)採取できると標準(一本の採取量は200〜300cc)といわれており、今回のように樹齢35年生の太さで、本数が揃っていることは、近年においては珍しく、大変貴重とのことであった。

また、浄法寺漆は生産量の多さだけでなく、塗ったあとの強度が非常に高く耐久性に優れていることや、赤や黒の鮮やかな色合いを漆器に表現できることなど、品質の高さも誇っている。

平成26年(2014)年度に文化庁が国宝・重要文化建造物の保存修理には原則として国産漆を使用することとしたため、世界遺産の中尊寺金色堂や日光東照宮、金閣寺などの修復に欠かすことのできない塗料となっている。

令和4年度の国内生産量は、国内消費量約23・9トンの8・5%に当たるわずか約2・0トンであり、ウルシ生産の拡大は、緊急性のある重要な取り組みになっています。

もし、このような「ウルシの木」がありましたら、ノースジャパン素流協までご連絡ください。



若手職人による漆掻きの様子

第73回全国植樹祭「おもてなし広場」の展示製品が教材に!
 ↳山形県立農林大学校に製品を寄贈しました!↳

7月25日、山形県立農林大学校を訪ねて、第73回全国植樹祭「おもてなし広場」で展示した集成材・

合板・LVL(単板積層材)等の製品を寄贈しました。全国植樹祭の展示にご協力いただいた企業の製品が、今後は教育現場で教材と

して活かされることとなります。菊地繁美校長から「寄贈していただいたことに感謝いたします。こうした製品を一度に揃えることは難しいので、ありがたく活用させていただきます。」とお礼の言葉を頂戴しております。



教材として寄贈してまいりました!

NJ素流協職員研修を行いました
 ↳財務分析にチャレンジ!↳

8月9日、NJ素流協職員研修を行いました。この研修は、職員の知識・技能向上のため定期的に行っているものです。

今回は、財務リスク研究所株式会社 代表取締役 横山悟一氏を講師に迎え、財務分析についてレクチャーしていただきました。研修の内容を抜粋して紹介します。

●BS(貸借対照表)

資金調達手段や資金用途を知ることが出来ます。注目するポイントとしては:

▽自己資本比率
 自己資本÷純資産÷負債・純資産合計

ここが30%以上の比率だと安全性は高い

▽債務償還年数
 債務償還年数Ⅱ(短期借入金+長期借入金+社債)÷(当期純利益+減価償却費)

返済能力の指標となる。ここが20年以内(理想は10年以内)に収まっているかは大事なチェックポイントの1つ。

●PL(損益計算書)

一会計期間の経営成績や損益構造を知ることができます。注目す

るポイントとしては：

▽支払利息率

支払利息率＝支払利息／売上高
借入が多すぎないか？の指標となるもの。右の式で出た数字を％にして、1％未満だと健全。



講座の様子、真剣に受講しています

お知らせ

アカマツ伐採の再開について

感染拡大を防ぐため松くい虫被害区域ではアカマツ等の伐採時期

が制限され、今の時期は伐採ができませんでした。これから秋を迎えてマツノマダラカミキリの活動が収まるので、伐採が再開されます。

1・具体的な伐採の再開時期

10月～青森県・岩手県・山形県
11月～宮城県

(※秋田・福島両県は、伐採の制限がありません)

2・移動制限

●青森県・被害発生市町村の被害木・健全木とみられる木の市町村外への移動を制限

●岩手県・被害地域内の松くい虫が付着している伐採木は移動を制限（駆除後を除く）
但し、被害地域内において駆除を目的とする移動は可

●秋田県・山形県・福島県・県下一円で森林病害虫が付着している

伐採木等（駆除を行ったものを除く）の移動を制限

●宮城県・県下一円で6～10月の伐採及び移動は避ける

詳細は各県担当にご確認ください

い。

「令和5年度梅雨前線豪雨等による災害」に対する支援措置があります！

先ごろの豪雨により被災された方々にお見舞い申し上げます。

さて、林野庁は、8月25日付けで「5月28日から7月20日までの間の豪雨及び暴風雨による災害」について、当該災害を、独立行政法人農林漁業信用基金の「林業・木材産業災害復旧対策保証」の対象といたしました。これを受けて、基金で保証の申し込み受付が始まりました。詳しくはホームページをご参照ください。

●「林業・木材産業災害復旧対策保証」の概要

▽保証限度額…8000万円

▽保証期間…運転資金5年以内(長期7年以内)、設備資金15年以内

(返済据置期間は2年以内)

▽保証料…最大で5年間保証料免除

▽保証対象者…林業・木材産業を営む方で「令和5年5月28日から7月20日までの間の豪雨及び暴風雨による災害」により直接的・間接的（主要取引先の被災等）に被害を受けられた方

独立行政法人
農林漁業信用基金HP

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/jigyousya/jigyousyoukei.html>



写真で納材の問題を解決！
「フォトソリューションを是非ご利用ください！」

優良木出材の時期が近づいていきます。「良い丸太かも？売れるかな…？」など、判断に困った際は、フォトソリューションの活用をご検討ください！
フォトソリューションは、組合

送付方法 (以下のいずれの方法でも可)

■ メール による送付

photo@soryukyo.or.jp

ノースジャパン素材流通協同組合 営業企画部 宛

■ 郵送 または 持ち込み

〒020-0024

岩手県盛岡市菜園1丁目3番6号 (農林会館内)

ノースジャパン素材流通協同組合 営業企画部 宛

員が素材生産や流通・販売、造林や育林などの事業を行うなかで、判別や判断に困ったときに、関連する写真を送付いただいで、当組合事務局が解決のお手伝いをする仕組みです。
ご利用は、
▽写真をデータでメール送付
▽郵送・持ち込み
のいずれかの方法で可能です。

お問い合わせは、ノースジャパ
ン素材流通協同組合営業企画部ま
で。

スギ花粉が医薬品に!?
スギ花粉舌下免疫療法の
医薬品原料となるスギ花粉
採取事業について

現在、スギ花粉症の根本治療は

「スギ花粉舌下免疫療法」以外に
ありません。スギ花粉症に関する
閣議決定 (R5・5・30) により、
この特許権をもつ株式会社鳥居薬
品が、治療薬を5年以内に4倍に
増産することになり、急遽、医薬
品の原料となるスギ花粉を採取す
る事業者を募集しています。

募集はタイプが3つあり、①全
般 (以下②③の双方を実施)、②雄
花の付いたスギ枝 (1m強) の納
入③雄花の付いた当年枝を剪定し、
ビニールハウス内で水耕栽培をし
ながら花粉を採取 (掃除機吸引方
式) となっています。

ビニールハウス等の施設・資材
等については助成があるとのこと

です。

日程が極めてタイトとなつてお
り、9月末までに意思表示をする
必要があります。組合員の皆さま
に代わって内容を確認した上で、
近くご案内を差し上げたく思いま
すので、ご関心のある方は、至急、
当組合参与の一条まで連絡をお願
いいたします。

**精算書の様式が
インボイス対応に変わります**

10月1日施行のインボイス制度
に対応するためN J素流協では販
売ソフトの改修作業を行っており
ます。10月納入分で11月初旬にお
送りする精算書から様式が変更と
なります。

また、インボイス登録番号をま
だお知らせいただいでいない組合
員さんにおかれましては、番号を
取得次第、ご連絡いただきますよ
うお願いいたします。



**森林・林業・環境機械
展示実演会が開催され
ます**

来る11月12日 (日) ~ 13日 (月)
の2日間、茨城県ひたちなか市に
おいて森林・林業環境機械展示実
演会が開催されます。

N J素流協では、機械展をメイ
ンとした視察研修を企画中です。
11月12日から2泊3日の行程で、
林業機械展をはじめ茨城県内の森
林伐採現場や林業関係施設等を視
察訪問する予定です。

詳細が決まり次第、参加募集い
たしますので、スケジュール確保
をお忘れなく!!
出展会社等、機械展の詳しい情
報は左記HPよりご覧いただけま
す。

林業機械化協会HP

<https://www.rinkikyo.or.jp/>



ちよつと気になる木の話

大型工場の丸太集荷範囲

— かくれた問題点を探る —

近年、国産材時代に向かって、製材、集成材、合板の大型工場が新設、増設されている。丸太の集荷はどうなっているのか？

新規増設に当たっては、都道府県庁が絵を描くケースも多い。〇〇県の年間伐採量は、現状50万m³あり、歩留まりから考えると30万m³位用材供給できるので、12万m³位の大型工場供給は可能だし、年間伐採量も今後増える見通しなので、供給は〇〇県内のみで十分に対応できる。

美しい絵のように見えるが、実態は異なる。大型工場の丸太供給実態は、県内のみという工場はほほほないといえる(北海道は除外)。何故なんだろう？基本的には、大型工場は、生産効率性を求めているので、使用樹種、径級範囲、丸太の質の巾を狭めざるをえず、どうしても、県内丸太供給量の計算上の数字とは合致せず、美しい絵の通りにはいかない。どんな丸太でもOKという宣伝にもみられるが、本当に大量に欲しいものは、範囲があるのである。食べられるものが沢山あっても、美味しいものから食べる我々

の生活の癖と一緒にある。

また、工場の立地もある。面積の狭い県では、元々のパイが少ないが、面積の広い県でも、工場の立地によっては、他県の方が流通コストが安く、他県仕入れの方が容易である。港湾立地の外材から国産材転換工場は、集荷範囲は海を除くので180度しかなく、集荷範囲を拡大するか、内航船利用も検討せざるをえないこととなる。

いこととなる。

これに加えて、素材生産業者は、幾らかでも収入が上がる納入先が選択できる方がよい。大型フルトレーラーで運ばば、流通コストも下がり、受入単価の安い県内の工場より、受入単価の高い県外工場に運ぶのが有利である。いくら、県内の方が、納入先として有利(運賃を距離だけ)との美しい絵をかいても、県庁内の机上の妄想にすぎない。ということ、隣接県だけでなく、広域県の丸太の供給体制が現実である。

ここで、本題である。最近、大型バイオマス発電所の丸太が集まらない理由による経営破綻のニュースがあちこちで見られる。

バイオマス発電だと工場からの円型が

集荷範囲で、計画とそんなにズレはないはずとのこととなるが、何故なんだろう？立地場所が集中立地していれば、「うくん」ではあるが、許可段階で検証されているはずである。

意外な理由は、廃藩置県がなくなると？元々江戸時代の藩から明治時代の県に移行する際、単純に現在の県の範囲になったわけではない。

廃藩置県時、現在と異なる県の一般的な状況を見るとわかる。長野県は、県民歌は信濃国である。福島県は、会津、中通り、浜通りと今だに分かれている。山形県では、名物の芋煮でも、村山と庄内では牛肉と豚肉、しょうゆ味とみそ味である。

こうしたケースでは、丸太も計算通りには動かない。今だに、明治時代の影響か？私は、元々の藩の範囲とは、川の集水範囲をベースとして、人や物が流通し易い範囲として境がつけられたものだと考える。とすると、物流である丸太は流通しづらいとなる。今、違うのは、流通のネックだった峠にトンネルが掘られているところである。この物流コストが変わったことを皆で理解する必要がある。でも、なかなか旧藩の範囲を超えるには、心の奥底に問題がありそうだが、若い世代の交流も必要かな？

もう一つは、納入組織の一本化問題である。地域の素材生産事業体を一本にまとめて、納入組織をまとめたら安心との美しい絵である。しかし、組織の取りまとめ役が、全員から信頼を得るわけではない。〇〇市長選でも2人立てば、応援者は分かれる。同じ地域でもA地区、B地区は仲の悪い場合もある。必ずしも、全員納得して全面協力できるわけではない。皆が気持ち良く協力するには、複数の納入組織が必要と考える。よく話しているが、林業・木材産業は、自動車産業のようなピラミッド型でなく、アメーバ型にして、調整弁をつくるのが肝心である。

隠れた問題点を書いてみたが、丸太の集荷において最も大切なことは、工場側と供給側がWin-Winになれる人の存在である。一方的命令ではうまくいかない!!コミュニケーション能力である。そのポイントは、眼の奥が笑っているかである。

最後に、余計なネタ。国立大学のタコ足大学は、今だに山形大学と信州大学である。なかなか廃藩置県は難しい。新潟大学は、田中角栄総理の、長岡科学技術大学、上越教育大学の新設で解消した。ある意味、新潟県のまとまりを達成？

令和5年8月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	9,178	97.2	80.7	7,583	108.6	108.3	16,760	102.0	91.2
カラマツ	4,442	89.8	139.5	106	605.7	14.7	4,548	91.6	116.5
アカマツ	1,665	88.9	102.8	40	*	59.9	1,705	91.1	101.1
その他	0	*	*	116	110.3	44.5	116	110.3	44.5
合計	15,284	94.0	94.5	7,845	110.4	97.4	23,129	99.0	95.5

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	2,994	62.2	91.9
カラマツ	2,431	76.8	106.2
アカマツ	1,019	78.5	129.7
その他	309	108.0	219.4
合計	6,754	70.6	104.3

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m ³)	製材・集成材・その他用 (m ³)	計 (m ³)	燃料用 (t)
スギ	52,217	38,457	90,674	21,999
カラマツ	21,540	575	22,115	15,369
アカマツ	8,549	55	8,604	10,917
その他	0	720	720	767
合計	82,306	39,806	122,112	49,052
目標達成率 (%)	34.3	22.7	29.4	36.3
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和5年8月の需給動向】

- 8月はお盆休みの影響もあるが例年より暑い日が続く、素材生産量は減少傾向。
- 9月までは虫害の心配もあり、各工場、原木の仕入れについては慎重な姿勢（制限あり）今後、秋以降の原木仕入れは増量する傾向にある。

耳からウロコ

銘木マニアではなく、木を大切に！

— この仕事と違うでしょ!! —

長年の経験からの話。ある時、林業重大災害あり、報告とその後の対策の相談があり。現場のポンチ絵や災害報告書を説明しに来た。その中に現場の写真もあった。そこに写っていたのは、倒された針葉樹木の伐根もあったが、注目したのは、巨大で通直のウダイカンバの立木の姿である。「これは、地域的にも絶対にマカバで、100万円/m³はする。絶対に伐つて銘木市出した方がいいよ！」と真剣に話した。しかし、説明者は、「今、重大災害の話です。その話ではないです！」と、その通りだが、眼が別のところに移ってしまった。

ある時、林道で丸太を積んだトラックがひっくり返る事故があったとの報告で、今後の注意喚起の文書の相談があった。この時、丸太を積んだトラックの事故写真を見せられた。過積載ではありませんが、この説明の資料である。「この運んでいる丸太は、メジロカンバだよ!!どこへ運ぶの? まさかチップ工場じゃないよね? 5万円/m³位はするよね!」と話してしまった。すると同じように、「今は、トラック事故の話です!」と。何か別なところに眼が移ってしまう。もしやマニア癖かも……。

ア癖かも……。

ある時、土地管理の担当者が来た。某国立公園内の木が倒れて遊歩道をふさいでいる。公園事務所から、早く撤去して欲しいと依頼がきている。直ちに対応できるような指示をお願いしたいとのことであった。依頼文書と図面で説明を受けたが、根返りした立木が写真で提供された。「これは山ケヤキ(赤ケヤキ)の銘木だよ。ね。m³当たり100万円は堅いよね!」と、根返り木だから、材に割れは入っていないはずだ。「今は、遊歩道の回復の話です!」しかし、すぐに現地からの連絡が入り、除去のため、次の日に出向くことに。その要請は、除去の際、勝手に伐採したら、採材が違うと言われそうなので、現地で、木材チョークで採材箇所を指示してのことだった。結果、眼が別のところに行つたが、やっとな本筋に重なった。

ある時、木材普及イベント開催にあたり、柳瀬杉の丸太を展示したので、往復運搬費をみてほしいと、イベント内容の紙と見積書を説明に来た。写真を見せて、この丸太の大きさなら子供たちも喜びます。「うっ。ちょっと待て! これ良い丸太だね。高いよ。」「その話じゃなくて!!」それなら、中京の銘木市場へ帰り荷分を安くできるよ。片直分の運搬費はOKです。何となく、話の本筋は通した? 銘木マニアではなく、せっかく育つた木を大切にとの愛情行動である。